

あ と が き

本年度2冊目 Vol.7 No.2(14号)をお届けいたします。前号の印刷終了直前の8月12日、病气療養中でありました当会副会長・専務理事の太田祐祥先生が逝去されました。先生は愛知県の腎不全対策をと、昭和45年より県内の若き透析医師たちばかりでなく行政にも呼び掛けられ患者サイドにたった愛知方式を確立されました。その後、都道府県透析医会連合会から現在の(社)日本透析医会への法人化のため精力的に活躍されました。

名古屋の江戸っ子といわれた太田先生語録の一つに「みんなに理解してもらってやるのはいいが、それでは、みんなが理解できることしかできん」というのがあります。透析医療の世界で果たす当会の役割も、そんなところに求めていかなければならないでしょう。先生のご冥福をお祈りいたします、合掌。

災害対策のためのIDカードが各医療機関の患者さんに配布されたと思いますが、この件についての記事が前回予告しておきながら掲載できませんでした。申し訳ありません。

事務局の寄稿の呼び掛けに答えていただきました会員のみなさまに感謝いたします。

(広報委員 長谷川 辰寿)